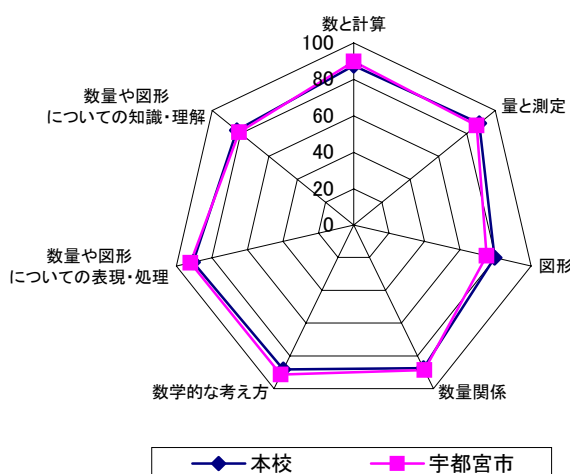


宇都宮市立豊郷南小学校第3学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と計算	87.6	89.9
	量と測定	88.7	86.8
	図形	79.5	74.9
	数量関係	87.4	88.5
観点別	数学的な考え方	88.2	91.4
	数量や図形についての表現・処理	90.4	91.9
	数量や図形についての知識・理解	82.6	80.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算 (87.6%)	2・3桁のたし算・ひき算の筆算の正答率は90%以上で、計算の仕方はほぼ理解しているといえる。ひき算やかけ算の筆算では、桁数が増えると正答率が低くなる傾向にある。また、大きな数の十進位取り記数法による数の表し方や数の構成の理解は、まだ十分ではない。	計算ドリルや学習プリントを活用した繰り返し学習を進め、計算の理解の定着に努める。個別指導では、かけ算九九やたし算、ひき算を確認し、より正確に計算ができるようにしていく。大きな数については、位取り板を活用して、十進法の理解を深める。
量と測定 (88.7%)	長さの単位を選ぶことやある時刻から一定時間経過した時刻を考えること、図からかさを読み取ることは、正答率が90%以上で、よく理解しているといえる。時刻から時間を導くことは、まだ十分に理解されていない。	これからも具体物の操作や実際の測定活動を通して、量についての体感的な理解を深めていく。問題解決の必要性を実生活の中で持たせ、意欲的に取り組めるよう、学習展開を工夫する。時刻や時間については、生活の中で活用していくと共に模型時計や時間の数直線を使って視覚的に理解できるようにしていく。
図形 (79.5%)	正答率は、79.5%で、市の正答率と比べ、上回っている。円の半径については、よく理解しているが、長方形の弁別や球の性質については、まだ十分に理解されていない。	これからも様々な形や向きの三角形や四角形や球の模型に触れさせ、図形概念をしっかりとらえさせる。辺の長さや直角に注目させ、図形の性質を理解できるようにすると共に、名称も漢字でも書けるように繰り返し学習していく。
数量関係 (87.4%)	数量関係は、棒グラフの問題である。棒グラフの描き方は、市の正答率をやや上回っている。2つのグラフを比較して考えることは、まだ十分に理解されていない。	算数だけでなく、社会や理科の学習でも棒グラフを活用して、指導していく。グラフの縦・横の向きに関係なく数値の比較ができるようにいろいろなグラフを問題に取り上げてく。1目盛りの大きさを読み取れるように繰り返し学習していく。